



社会教育便り

幡多地区小中学校PTA連合会研究大会（大月町大会）

令和3年11月21日（日）に大月町環境改善センターにて「幡多地区小中学校PTA連合会研究大会」が行われました。新型コロナウイルス感染拡大が心配される中、3密を避け、消毒・検温等の対策を取り、6市町村から123名の参加がありました。表彰行事、講演、家庭のルールづくりチェックシートやPTAの取組発表が行われました。今後のPTA活動の活性化や子どもたちの健全育成につながるヒントを得ることができた研究大会となりました。

幡多地区小中学校PTA連合会表彰

【個人表彰】

- 宿毛市立片島中学校PTA 柿本 裕人 様
- 四万十市立中村西中学校PTA 久保 美保 様

【団体表彰】

- 四万十市立八束中学校PTA 様
- 四万十市立東中筋中学校PTA 様
- 四万十市立中筋小中学校PTA 様
- 四万十市立利岡小・後川中PTA連合会 様



竹下 和男 氏 講演 「弁当の日～『めんどくさい』は幸せへの近道～」

子どもが、自分の弁当を作って登校する「弁当の日」。献立を考え、買い出しを行い、調理し、弁当箱に詰め、片付けをする。その全てを子どもが自分一人で行います。竹下先生は、この実践について、日本各地の小中学校で講演されています。

講演の中で先生は、実話を元にテレビドラマ化されている「はなちゃんのみそ汁」の安武はなさんとの交流についてお話しされました。はなさんのお母さんは、彼女が5歳のときに余命宣告を受け、自分が死んでからの娘のことを思い、その時からはなちゃんにみそ汁の作り方や洗濯、掃除の仕方、また靴を並べることの大切さなどを一つ一つ教えました。そして幼い娘の姿を見守りながら、天国へ旅立ちます。生前のお母さんの歌に乗せ、会場にスライドが流れた時には、多くの参加者が涙を流しました。

竹下先生は、「他人のことを思って涙を流したり理性を働かせたりという人間らしさを司るのは前頭前野。その成長する8歳から19歳に、誰かに喜んでもらうという感覚が育つと、相手の気持ちが分かる人になる。だからこそ、身体やこころが育つ20歳までに、しっかりとした食事を取ることが大切だ。」と話されました。「弁当の日」は、そうした食生活やこころが育つための環境をつくる取組です。

「子どもの行動を見守ることを面倒くさいと思う親がいる。しかし面倒くさいことは、実は大切なことへの気付きにつながる。」竹下先生はそう話されました。先生の熱い思いは、会場の参加者の心にしっかりと届いていました。

